

建材 マンスリー

No.722 12 DECEMBER
2025

特集

建設業界における 技能・技術継承

編集室の商品ピックアップ

備えて守れ！

“水災害”の被害を抑える建材

注目企業を訪ねる

株式会社博水



建設業界における技能・技術継承

生産年齢人口の減少及び職人の高齢化が相まって、ものづくりの技能・技術継承問題が深刻化している。

国土交通省によると、建設業界の就業者は55歳以上が36.7%、

29歳以下が11.7%と他産業に比べ高齢化の進展が著しい。

さらに60歳以上の技能者が全体の約4分の1を占めており、10年後にはその大半が引退すると見込まれる。

継承は一朝一夕には進まず時間がかかるため、技能・技術の消失も懸念される。

このような中、若年入職者の確保と次世代への承継は喫緊の課題だ。

今号では、技能・技術継承の課題解決への取り組みを紹介する。

● 建設業就業者数の推移

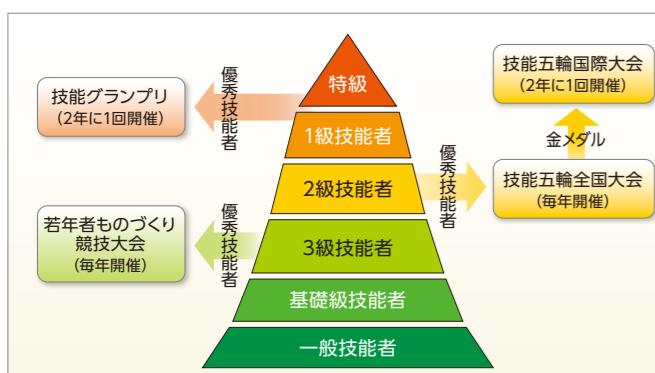
(注) 1. 2013年以降は、いわゆる「派遣社員」を含む

2. 建設技能者：総務省労働力調査 表番号 II-5_ 産業、職業別就業者数のうち、建設業 職業番号 24_ 生産工程從事者、32_ 輸送・機械運転從事者、33_ 建設・掘削從事者、37_ その他の運搬・清掃・包装等從事者の合計

3. 2011年の数値は東日本大震災の影響により、岩手県、宮城県及び福島県において調査実施が困難となったため、補完的に推計された値（2015年国勢調査基準）

資料出所：総務省「労働力調査」長期時系列表 5

● 技能競技大会の相関図



選手団が世界で最多となる金メダルを獲得しましたが、近年は韓国と中国のレベルが非常に高く、メダル獲得数では下回っている状況です。競

水準の向上を図るとともに、国際交流と親善も目的とした大会だ。日本選手団は第11回大会の1996年から参加。1970年東京、1985年大阪、2007年静岡と、日本でも3回開催されている。また、2028年の開催地が愛知県に決定し、厚生労働省では技能振興に向けた取り組みと日本選手に対する技術力の強化に注力している。

「2007年の静岡大会では、日本選手団が世界で最多となる金メダルを獲得しましたが、近年は韓国と中国のレベルが非常に高く、メダル獲得数では下回っている状況です。競

技課題はWSI（ワールドスキルズインターナショナル）*が職種ごとに標準的なスキルを踏まえて設定しております。日々の訓練が大切になっています。このため、金メダルの獲得数に固執するのではなく、技能の土台、基礎的な技能水準の向上を最重要とと考え、強化訓練などを進めていきたいと考えています。2028年の愛知での開催は、日本における技能の重要性を国内外に訴える絶好の機会です。今後もプロモーションの実施や出場選手の強化訓練などに取り組み、ものづくり産業への注目度を高め、若い人材の確保・育成につなげていきたいと思います」

同省では各大会の周知広報のプロモーションとして、専用ウェブサイトやSNSによる情報発信を積極的に実施している。ものづくり離れ・技能離れが進む若年層へPRを取り組み、ものづくり産業への注目度を高め、若い人材の確保・育成につなげていく考えだ。

「技能は日本の産業・経済維持に不可欠であり、国際競争力の源泉でもあります。そのため、大会を通じて未来の人材に向けてものづくりの魅

力を見出し、技能の継承に貢献していきたいと思います」

技能・技術は日本にとって貴重な資産であり、継承が進まないと企業の存続や文化的価値・品質にまで影響を及ぼしかねない。しかし、少子高齢化による人材不足や、若手人材のものづくり業界への興味喚起が難しいことなど様々な課題がある。

労働者の優れた技能は我が国の発展に大きな役割を果たしており、持続的な経済成長を続けるためには高度な技能人材の育成が重要であるとされている。技能人材の育成を担う

厚生労働省で能力評価担当参事官室の室長を務める大村倫久氏は次のように語る。

「ものづくりの素晴らしさを知らない、あるいは気づいていない未来の人材に向けた魅力の発信、技能の継承は重要です」

厚生労働省では、若年層の就業意欲喚起や技能継承に役立てるため、各種の技能競技大会を推進してきた。「若年者ものづくり競技大会」は、企業に就職していない20歳以下の青年技能検定3級程度の若年者を対象に、就業促進と技能者拡大を目的と

ものづくり業界に対する若年層の興味喚起が課題



厚生労働省 人材開発統括官付
能力評価担当参事官室
2028年技能五輪国際大会準備室長

大村 倫久 氏



「技能五輪全国大会」
毎年開催しており、2025年大会

「とりわけ重要な取り組みが、『技能五輪全国大会』です。技能検定2級相当以上・原則23歳以下の青年技能者を対象に、技能レベル日本一を競いレベルの向上を図るとともに、多くの人にものづくり分野の技能の重宝性・必要性をアピールするという目的があります。競技職種は、機械組み立てやプラスチック金型などの『機械系』、構造物鉄工・電気溶接・張り・配管・左官・建築大工などの『建設・建築系』といった計42職種と多岐にわたります。1963年から毎年開催しており、2025年大会

して年に1度開催している。2年に一度開催している「技能グランプリ」は年齢制限がなく、特級、一級の技能検定に合格した熟練技能士が対象だ。ここでは熟練技能を広く国民に披露して、技能士の地位向上と技能能

尊重気運の醸成を図る。

の参加者数は1025人に上りました」

技能五輪全国大会は、隔年で開催されれる技能五輪国際大会の選手選考を兼ねており、2025年全国大会の受賞者は2026年の中国・上海大会に出場する。技能五輪国際大会は世界最大で、唯一の世界レベルの技能競技大会であり、競技を通じて参加国・地域の職業訓練の振興及び技能

水準の向上を図るとともに、国際交流と親善も目的とした大会だ。日本選手団は第11回大会の1996年から参加。1970年東京、1985年大阪、2007年静岡と、日本でも3回開催されている。また、2028年の開催地が愛知県に決定し、厚生労働省では技能振興に向けた取り組みと日本選手に対する技術力の強化に注力している。

「2007年の静岡大会では、日本選手団が世界で最多となる金メダルを獲得しましたが、近年は韓国と中国のレベルが非常に高く、メダル獲得数では下回っている状況です。競

技課題はWSI（ワールドスキルズインターナショナル）*が職種ごとに標準的なスキルを踏まえて設定しております。日々の訓練が大切になっています。このため、金メダルの獲得数に固執するのではなく、技能の土台、基礎的な技能水準の向上を最重要とと考え、強化訓練などを進めていきたいと考えています。2028年の愛知での開催は、日本における技能の重要性を国内外に訴える絶好の機会です。今後もプロモーションの実施や出場選手の強化訓練などに取り組み、ものづくり産業への注目度を高め、若い人材の確保・育成につなげていきたいと思います」

同省では各大会の周知広報のプロモーションとして、専用ウェブサイトやSNSによる情報発信を積極的に実施している。ものづくり離れ・技能離れが進む若年層へPRを取り組み、ものづくり産業への注目度を高め、若い人材の確保・育成につなげていく考えだ。

「技能は日本の産業・経済維持に不可欠であり、国際競争力の源泉でもあります。そのため、大会を通じて未来の人材に向けてものづくりの魅

力を見出し、技能の継承に貢献していきたいと思います」

技能・技術は日本にとって貴重な資産であり、継承が進まないと企業の存続や文化的価値・品質にまで影響を及ぼしかねない。しかし、少子高齢化による人材不足や、若手人材のものづくり業界への興味喚起が難しいことなど様々な課題がある。

労働者の優れた技能は我が国の発展に大きな役割を果たしており、持続的な経済成長を続けるためには高度な技能人材の育成が重要であるとされている。技能人材の育成を担う

厚生労働省で能力評価担当参事官室の室長を務める大村倫久氏は次のように語る。

「ものづくりの素晴らしさを知らない、あるいは気づいていない未来の人材に向けた魅力の発信、技能の継承は重要です」

厚生労働省では、若年層の就業意欲喚起や技能継承に役立てるため、各種の技能競技大会を推進してきた。「若年者ものづくり競技大会」は、企業に就職していない20歳以下の青年技能検定3級程度の若年者を対象に、就業促進と技能者拡大を目的と



技能五輪国際大会の様子

「技能は日本の産業・経済維持に不可欠であり、国際競争力の源泉でもあります。そのため、大会を通じて未来の人材に向けてものづくりの魅

力を見出し、技能の継承に貢献していきたいと思います」

* WSI (ワールドスキルズインターナショナル) : オランダに本部を置く、技能五輪国際大会を隔年で開催・運営する非政府組織

住友林業独自の高い品質基準を理解し 実践できる未来の人材を育成

高品質の「住友林業の家」を施工する技能者育成を目的とし、1988年に開設した企業内訓練校である住友林業建築技術専門校。大工や左官といった職人の高齢化・人手不足を解決するべく、独自技術の木造住宅だけでなく、本の伝統的な木造軸組工法まで幅広く対応できる技能者の育成に努めている。

建設業界全体の課題である職人の高齢化と人手不足に対応し、将来の施工力確保を目指す当校では、プレカット化で失われつつある「手刻み」などの伝統技術も継承しながら、多様な顧客ニーズに応えられる若手技能者の育成に取り組んでいます。職人不足が顕著だったバブル期の設立当初には毎年60名の訓練生を受け入れていましたが、職人の高齢化が進む現在では受け入れ枠を100名体制に拡大。これまで累計1800名が技能職養成訓練

●訓練の特色

1 基礎技術の反復	「建て方」など特定の重要項目に絞り、習得できるまで同じ作業を繰り返し訓練
2 伝統技術の継承	プレカットでは学べない「手刻み」や道具の仕込みなどを基礎から指導
3 独自工法の習得	住友林業の仕様や施工基準をモデル棟実習に絡めて、図面作成・積算から施工まで一連の流れを体系的に理解する
4 生きた情報の反映	住友林業と連携し現場の課題や顧客ニーズをカリキュラムに反映

とされる技術の習得を目的に専門校でリターン研修を行い、階段や和室施工などのより高度な技術を段階的に習得できる機会を設けています。

寮での集団生活を通じて 社会人としての基礎力も育む

人材育成の具体的な取り組みとしては、まず寮生活での規律を通じて挨拶や身だしなみ、近隣への配慮といつた「社会人としての基礎」を学んでもらい、人間性を育みます。技術面では常に訓練に関する課題を抽出しながら、それを次期カリキュラムに反映します。

教育・訓練の方針では、「なぜ」を徹底的に理解させること」を掲げています。例えば、パネル同士はクリアランス（隙間）をとつて施工する」といったマニュアルの指示に対する理解を促し、現場での応用力を養います。また、訓練生には施設・教材・指導体制を含めて常に最良の訓練環境を提供することを重視し、1年間の訓練のうち、座学で約500時間、実技で約1300時間を確保しています。

また修了後のフォローアップも実施し、3年目・4年目に現場で必要



住友林業建築技術専門校
校長
樋口 進

日本伝統の技能・技術力を高め 丁寧な仕事で高品質な家づくりを



住友林業ホームエンジニアリング
株式会社
東海事業部・大工技能職
稻垣 孝介

2025年技能五輪全国大会受賞者インタビュー

次世代に技術をつなげ 左官の魅力を伝えていく職人に



住友林業ホームエンジニアリング
株式会社
九州事業部・左官技能職
溝江 橙生

●訓練の様子



私はマンション育ちで戸建てに憧れがあり、「自分で家をつくりたい」という思いで建築学科のある高校から住友林業ホームエンジニアリングに入社し、建築技術専門校にて大工職になるための訓練を始めました。

五輪出場にあたり訓練では、材料を丁寧に扱う「身の回りを整理整頓する」という基本的重要性を再認識しました。現場では「慣れ」によりこれらがおるそかになりがちです。しかし、扱う材料はすべて「商品」です。「丁寧な仕事は整理整頓から」という信念が、現場での品質管理に直結していると理解できました。

さらに訓練では、木材に加工の目印をつける墨付けの精度や、その墨に対してもどう加工するかという「墨の見方」を徹底的に磨きました。プレカットが主流の現代でも、和室の造作など高い精度が求められる現場作業では必ず役立つ技能・技術だと思っています。

今日は2回目の五輪出場ですが、大会本番で作業エリアの地面が半分ガタついているというハブニングに見

舞われました。しかし、前回よりも精神的に余裕を持っていたことで、ガタつきがない面で対応することができます。ハブニングへの対応力は、現場でも生かせるスキルだと思っています。

五輪出場に際しては、訓練のために現場を離れることがあります。また、専門校の教官による手厚い指導も不可欠です。「自分一人では決して金賞受賞はなかつた」と、周囲の支えに深く感謝しています。一方で、今年は「チーム全員での入賞」を大きな目標に掲げていましたが、結果としては逃してしまいました。後輩への指導面で、もつとできることがあったのではないかと反省が残る大会もありました。

今後は、2026年に開催される国際大会に向けてさらに訓練を積んでいきたいと思います。世界と日本では違う技術に若干の違いがありますが、日本伝統の技能・技術力を高めて金賞を目指したいです。そして、整理整頓などを丁寧な仕事を追求し、高品質な家づくりを実現したいと思っています。



現在、私の現場では外観のモルタル作業が中心ですが、五輪の訓練では塗装など普段は使わない材料にも触れました。また、「自分の塗りをカメラで撮影して客観的に見る」といった分析も行いました。時間的な制約から普段の現場では難しかった「塗りの技能・技術」も深められ、作業スピードや品質の向上につながったと実感しています。

五輪の本番では、「次の作業を常に考えるながら動く」という厳しい時間管理が、現場での段取りに大いに生かせるようになりました。また、五輪の課題には現代ではあまり使われなくなった伝統的な技術もあり、五輪出場を通してそれらを学ぶことができます。もちろん、材料は違つてもコテの使い方など共通する部分も多く、伝統技能・技術の訓練

は現代の現場作業の応用力向上にもつながると思います。

大会1日目には、型が固まり外れないくなるという大きなトラブルが発生しました。しかし、今回は2回目の五輪出場ということもあり、午後の休憩で冷静に頭を切り替え、2日目の塗りで猛烈に頑張り、挽回できました。「トラブルをカバーする力」は、まさに現場で求められる精神力です。

さらに、今回は後輩を指導する立場であり、感覚的だった自分の技能・技術を言葉にして教えると頭の中が整理され、技能・技術への理解が格段に深まつたように感じています。

大会では他県の選手との交流を通じて、内装や店舗デザインなど私の知らない左官の仕事の多様性を知りました。近年問題視されている建設業界の人手不足と高齢化ですが、左官も同様です。左官の若手が減っている現状に危機感を持ち、「次の世代に技術をつなげ、左官の魅力を伝えていく仕事をしたい」と強く感じる経験となりました。

ており、出場者に対する約2ヶ月半の合宿形式で特別訓練を行います。これを乗り越えることで、高度な技能・技術はもちろんのこと、強い精神力や職人としての心構えが育まれます。周囲への感謝を学び、後輩指導への責任感が芽生えるなど、将来的な指導者育成の機会にもなっています。

年連続金メダルを含む25年連続の人賞、左官職種でも金・銀・銅・敢闘賞を含む5年連続の入賞を果たしています。建築大工職種では本年の4年連続金メダルを含む25年連続の人賞、左官職種でも金・銀・銅・敢闘賞を含む5年連続の入賞を果たしています。

内容の質向上に努めています。技術習得に苦戦する訓練生のためには、「特別教室」を編成し、全員をレベルまで引き上げることを目指しています。

女性技能者の採用と育成にも積極的に取り組んでおり、今年で4年目となります。女子寮を設置するなど環境面を整備し、配属先のHEでは長期的なキャリアを支援する体制も整えています。

さらに当校では、優秀な修了生を選抜し技能五輪全国大会へ出場させています。

今後も人間性を育みながら、若手女性技能者の採用と育成にも積極的に取り組んでおり、今年で4年目となります。女子寮を設置するなど環境面を整備し、配属先のHEでは長期的なキャリアを支援する体制も整えています。

技能者の育成に注力して参ります。技能者の育成に注力して参ります。

年連続金メダルを含む25年連続の人賞、左官職種でも金・銀・銅・敢闘賞を含む5年連続の入賞を果たしています。

半の合宿形式で特別訓練を行います。これを乗り越えることで、高度な技能・技術はもちろんのこと、強い精神力や職人としての心構えが育まれます。周囲への感謝を学び、後輩指導への責任感が芽生えるなど、将来的な指導者育成の機会にもなっています。

年連続金メダルを含む25年連続の人賞、左官職種でも金・銀・銅・敢闘賞を含む5年連続の入賞を果たしています。

内容の質向上に努めています。技術習得に苦戦する訓練生のためには、「特別教室」を編成し、全員をレベルまで引き上げることを目指しています。

女性技能者の採用と育成にも積極的に取り組んでおり、今年で4年目となります。女子寮を設置するなど環境面を整備し、配属先のHEでは長期的なキャリアを支援する体制も整えています。

さらに当校では、優秀な修了生を選抜し技能五輪全国大会へ出場させています。

今

コラム

最新テクノロジーを駆使し 「熟練職人に見える世界」を若手も体験

建設現場では、2次元図面から3次元の完成形状をイメージできる「図面読み取りスキル」が必要とされる。しかし、習得までには長年の現場経験が必要であり、若手人材への技能・技術継承の妨げにもなっている。そこで開発されたのが、ARなどの最新テクノロジーを用いて建築物の構造を眼前に表示させる「デジタルコンテンツ」だ。

熟練者が第一線を退きつつある建設業界では、長年の経験を経て身についた高度な技能・技術を若手に伝えなければ、熟練者の引退とともにそれが消滅する恐れがあります。

そこで必

要なのが、

技能・技術

の保存と可

視化です。

熟練者の動

作や手順を

デジタル

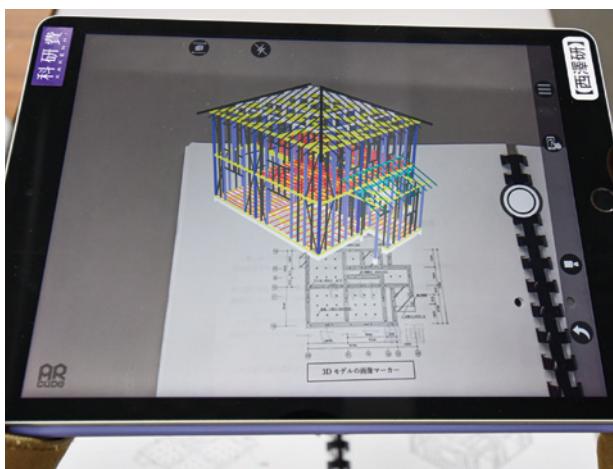
データ化し

て保存し、

これを若手

がいつでも

体験・学習



●第1段階の3Dモデルを表示するツール

活用するには向きでした。

そこで第2段階で開発したのが、

「ゴーグル型端末です。空間に原寸大

の3Dモデルを表示することで、装

着者はモデルの周りを歩いたり、近

づいて詳細を確認したり中に入ったた

りできます。両手がフリーになるた

め、空間に表示される3Dモデルの

通りに鉄筋を配置するなど、実践的

なトレーニングも可能になります。

第3段階ではゴーグルやタブレッ

トがなくても複数人が同時に3Dモ

デルを確認できる「ディスプレイを開

発、さらに拡大・縮小・回転を実現

できるようになったのが第4段階で

す。そして最新となる第5段階では、

空中に3Dモデルを浮かび上がらせ、

手の動きを検知して非接触で拡大・

縮小・回転などの操作が可能になつ

ています。

各段階の特徴に応じて、講義での

活用や企業内研修などに導入いただ

いています。第1段階のツールにつ

いては、国土交通省が人材育成・生

産性向上を目的として提供する「建設技能トレーニングプログラム」のデジタル教材としても採用いただきま

3Dイメージの可視化は 継承だけでなく効率化にも



明星大学 建築学部
建築学科 常勤教授
西澤秀喜氏

●第1段階の3Dモデルを表示するツール

必要性も高まるでしょう。高度な技

能・技術をどのように保存し、どの

活用による研修体制の整備や、熟練者などを教える側の「デジタルスキル」の

「熟練技能者にのみ見える世界」を若手が疑似体験できるこれらの技術は、2次元図面から3次元の完

成形状をイメージする図面読み取

りスキルの習得を早め、効率的な部材組み立て手順の予測などの技

能・技術継承に貢献します。また、

3次元の完成形状を可視化することで、2次元図面のみで組み立てる場合よりも手戻り・修正などの時間を大幅に短縮できることを確

認しております。

2025年も記録的な大雨による被害が各地で相次いだ。気候変動などの影響により、今後も短時間強雨の発生頻度や降水量の増大が予測されることから、水災害から建物を守る対策は重要になるだろう。そこで今回は、安全で快適な暮らしを守る水災害対策建材を紹介する。

備えて守れ！『水災害』の被害を抑える建材



障害物があっても脱出可能な室内ドア 「災害対策ドア」

阿部興業株式会社

ドア前に不意の障害物があっても開放・脱出が可能な室内ドア。浸水による水圧や地震発生時の家具転倒などでドアが開かなくなると、避難が遅れ危険に見舞われることもある。そこで開発されたのが「災害対策ドア」で、ドア上部に設けた欄間を開けることで生まれる空間を利用し、ドアを引き上げるだけで取り外すことが可能だ。また、ドア中央のガラスを割って脱出ができるように、割れた際に破片が粒状になる熱処理ガラスを採用しており、安全性にも配慮している。



【仕様】

サイズ (mm) : H2,070~2,340 × W650~875 × 柵見付25／素材 : ECOシート (表面材)
※柵外高さは製品サイズ、納まりに応じて縦枠のカットが必要

【参考価格 (カスタム)】

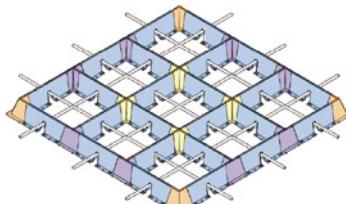
固定枠 : 170,500円／ケーシング枠 : 179,850円
※施工費・運送費別途 ※扉+三方枠+各種金物がセット

●問い合わせ先 : 阿部興業株式会社



水勾配なしの透水構造を実現する 透水貯留浸透コンクリート舗装材「Dotcon + (ドットコンプラス)」

PUMPMAN 株式会社



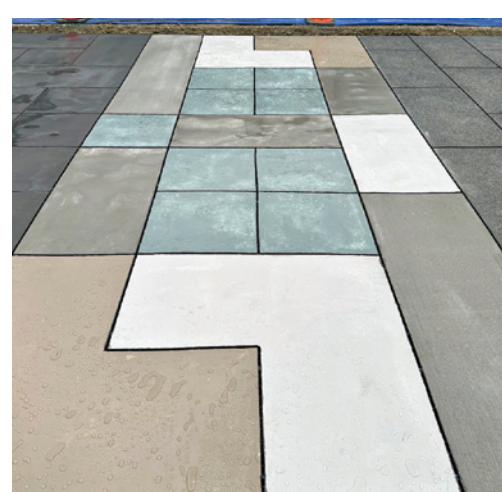
【仕様】

サイズ (mm) : H600 × W600 × D100 ·
目地幅10 (正方形の場合) / 素材 : 再生
ポリプロピレン

【価格】

面積・レイアウトに応じ個別見積

●問い合わせ先 : PUMPMAN株式会社



透水コンクリートを成型するための型枠で、世界初の“水勾配なしで排水機能を確保できる透水構造”を実現。直線・十字・L字などのパーツを組み合わせて地面に並べたままコンクリートを打設することで、タイル状の目地から雨水を地中へ浸透させるとともに内部空間に貯水もでき、水たまりやヒートアイランドの抑制につながる。また、従来の舗装工事で必要だった型枠や収縮目地の施工が不要なため、短工期・コストダウンを実現。パーツを組み替えれば、市松・六角形など様々なデザインが可能で、住宅などの駐車場におすすめ。



水の浮力で作動する止水板 「アクアフロート」

文化シャッター株式会社

電源不要で、浸入する水の浮力のみを利用して自動起立する仕組みの止水板。災害時に発生しやすい停電でも作動し、無人や夜間の施設でも水の侵入防止に役立つ。設計開口幅は1~20mまでの大開口に対応し、建物のエントランスや駐車場の出入口など、様々な場所への設置が可能。最大止水高さは2,000mm。集中豪雨がやむなどして水位が低下すれば、水位に応じて止水パネルも自動的に倒伏する。

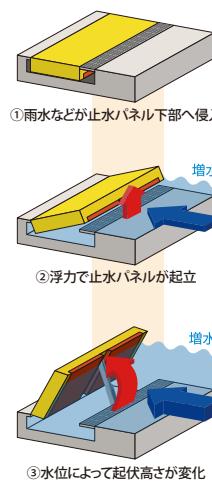


【仕様】

製作可能範囲 (mm) : W1,000~20,000 × H300~2,000 / 実験による止水性能評価 : Ws-6※1相当 / 表面仕上げ : ポルカプレート (タイル・石貼り対応可)

※1 Ws-6 : JIS A 4716 浸水防止性能等級の最高等級で、1時間で1mあたりに漏れる漏水量が0.001m³/h · m以下

●問い合わせ先 : 文化シャッター株式会社



注目企業を訪ねる

付 加 価 値 創 造 に 挑 戦

“昔ながら”の製法を“今”的強みに
常識にとらわれない挑戦で
業界に新風を吹き込む老舗練り物店



専務取締役
江越 雄大 氏
本社・福岡県福岡市南区清水2丁目18-36
創業・1903年
創資本金・1,000万円
従業員・12名
事業内容・水産練り製品製造販売業

株式会社博水

昔ながらの製法を守り、
練り物のおいしさを消費者にPR

— BtoBを中心に、さつま揚げやかまばこなどの練り製品を製造する博水。創業122年の歴史を誇る老舗の同社は、国内の同業他社が使わなくなつた昔ながらの製法を守り続けるとともに、練り物の常識にとらわれない商品開発など新たな取り組みに挑戦し、生産・消費量の落ち込む練り物業界で業績を伸ばしている。

「安定供給やコスト面から、現在は日本の練り物の8～9割に用いられているのは輸入された冷凍のすり身です。しかし当社では、地元の魚市場から仕入れた鮮魚をさばき、石臼を使って加工したすり身で練り物を作っています。冷凍の輸入すり身を使つた場合と比較すると、製造にかかる手間は5、6倍にもなりますが、すり身になる前

— 同じ頃、もうひとつチャンスが到来する。地元漁協からの、未利用魚を加工できないかという相談だ。寿司店では高級魚として扱われるコハダが成長するとコノシロと呼ばれ、市場で値がつかなくなり漁業関係者を悩ませていた。

「コノシロをすり身にしてつみれを作つたところ、子どもたちに地のものを食べさせたい」という小学校の考え方と合致し、給食に採用されました。食べた子どもや先生からは、「練り物のおいしさに驚きの声が上がりました。その後も、地元でアラの加工品を製造している企業から、残ったアラを活用できないか」という相談が寄せられたため、ギョロッケに加工して学校給食に納品しています。時代に逆行し「コストもかかると思つていた昔ながらの製法が、フードロス削減という“今”的社会課題を解決する武器として強みとなっていました」



地域の小学校での特別授業の様子。地元の魚を食べる意味、仕事の魅力、地域を支える人の思いなどを伝える



ここが注目ポイント

石臼を用い鮮魚から加工する
昔ながらの製法を守り
練り物製品を製造

未利用魚などの活用で
フードロス削減に寄与

新商品開発やボディビル大会への
協賛などで練り物の魅力をPR

の鮮魚の状態を確認でき、品質が担保されます。また、地場の魚を地場で加工消費する”といつ練り物の伝統文化、何よりおいしさにこだわりたいという思いから、昔ながらの製法を守り続けています”

— 家業を継ぐため江越氏が同社に入社したのは2015年。当時から魚離れ・練り物離れが進む先細りの業界で、昔ながらの製法も大きなコストとなっていた。想像以上に経営状況は厳しく、先が見えない状況が続いたという。

「転機となつたのは『口ナ禍』です。飲食店への卸売りなどBtoBが中心だったため売り上げが激減し、自分たちで顧客をつかむ必要に迫られました。そこで着手したのが、『鮮魚から作ったすり身と揚げたての練り物のおいしさ』を知つてもらう取り組みです。地場の魚であるえそのすり身にパン粉をつけて揚げた『ギヨロッケ』を、自社工場に隣接する直営店で注文を受けてから揚げて販売するという、初めての売り方に挑戦したのです」

「業界に入つて間もなかつたから、常識にとらわれない挑戦ができたのだと思いま『揚げたて販売』にこだわった」。

— それまでは朝揚げた商品だけを店頭に並べて販売するのが博水の当たり前だった。だが、おいしさを知つていた江越氏は「2024年に完成したヘルシー志向や小麦アレルギーの人、たんぱく質を手軽に摂取したい高齢者などにも好評を博している。練り物店に提供するなど、おいしい練り物を他県にも広める取り組みを始めています」

「『ファイナンスプロトライン』としてたんぱく質摂取にも効果的という練り物の魅力を伝えるため、ボディビルディング大会に協賛し、2026年には私自身も大会出場を予定するなど、PRも積極的に行つています。また、他県の養殖業者と協業し、廃棄される部位を当社ですり身にしてその地域の練り物店に提供するなど、おいしい練り物を他県にも広める取り組みを始めています」

— 練り物の可能性を信じて行動したからこそ今があるという江越氏。2015年比で、年商は約1.6倍に拡大している。売上構成の9割はBtoBだが、今後はBtoCの拡大を目指し、練り物のテイクアウト店を出店して若い世代も手に取りやすい「ブランドティング」を進めていく。

「学校での食育や練り物体験教室開催などを通して、練り物の魅力を伝えるとともに将来の消費者を育成していきたいです。ゆくゆくは、当社で練り物の可能性を広げる挑戦をしてくれる人材の育成にもつながれば最高ですね」

AIがサポートする「建築確認申請図書作成支援サービス」の提供を開始 ——一般財団法人 日本建築防災協会

(一財)日本建築防災協会は国の支援を受けて「建築確認申請図書作成支援サービス」を構築し、2025年11月に提供を開始した。同サービスは建築確認申請図書において記載が必要な主要事項について、申請予定図書などにおける記載の有無をAIが事前に評価するもの。サービスの利用により、確認申請の前に申請予定図書が適切に作成されているかどうかの自己チェックが可能となり、申請図書の不備の削減により建築確認審査の円滑化を図る。

■「建築確認申請図書作成支援サービス」の概要

1. 対象者：設計者など

2. 利用の対象：以下をすべて満たす建築物

- 新築：改正法施行（2025年4月1日）後に着工
- 2階建て以下かつ延べ面積300m²以下（平屋かつ200m²以下を除く）の木造建築物（軸組構法）
- 構造計算を行わず、仕様規定（壁量基準など）のみ

で構造安全性の確認を行うもの

- 内容：AIを活用して、2階建て木造一戸建て住宅などの建築物の新築に係る建築確認申請図書に必要な記載事項の一部の有無を評価する。建築基準法令・関係法令への適合性を審査するものではない。
- 利用料：無料（1アカウントにつき直近24時間で上限5回の回数制限あり）。電話・メールによる個別の操作サポートは行わない。
- 提供期間：2025年11月10日から2026年3月9日（予定）まで。
- 利用方法：右のQRコードからアクセスし、使用方法についてユーザーガイドを確認する。
- その他：システムの更新は随時行う。システム全体の利用回数が上限に達した場合は、サービスを終了する。



広告募集のご案内

「建材マンスリー」では、2026年度の広告を募集しています。
木材建材業界でビジネスを展開される御社の宣伝・PRに、当媒体をぜひご活用ください。

募集月	2026年4月号～2027年3月号（全12カ月） 複数枠（複数月）のお申し込みも可能です
掲載料	66,500円（税別）/月
サイズ	縦274ミリ×横196ミリ 断ち切りの場合はドブ3ミリをつけてください
ファイル形式	イラストレーター.ai もしくは.eps
カラーモード	CMYK（特色不可）
文字	アウトライナ化
入稿	発刊日1カ月前を目安に、デジタル入稿にて責了とさせていただきます。当方でのデータ修正は致しかねますのでご了承ください
発刊日	毎月15日（曜日によって前後する場合がございます）
掲載ページ	裏表紙（表4）
申し込み締め切り	2026年2月2日（月） 締め切り以降でも調整可能な場合がございますので、お問い合わせください



広告ページは裏表紙のみ

○お問い合わせ・お申し込み

住友林業(株)木材建材事業本部 業務企画部内
建材マンスリー編集室
E-MAIL:kenzai-monthly@sfc.co.jp

編集室より

弊社ホームページにPDF版を掲載中です。

住友林業 建材マンスリー

検索



送付先の変更、広告掲載・誌面に対するご意見などは
以下までご連絡ください。

メールアドレス：kenzai-monthly@sfc.co.jp

住友林業株式会社 木材建材事業本部 業務企画部

今年も本誌をご愛顧賜り誠にありがとうございました。一年を振り返りますと、大阪・関西万博は行けず、古古古米や麻辣湯は食べられず、働いて働いて働いて働くことはなく、ビジュは悪くなる一方、クマには遭遇できず終わってしまいそうですので、今日の夜ご飯は麻辣湯にします。来年こそ世間に取り残されないよう、流行を創る人間になろうと思います。末筆ではございますが、来年も皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。(F)

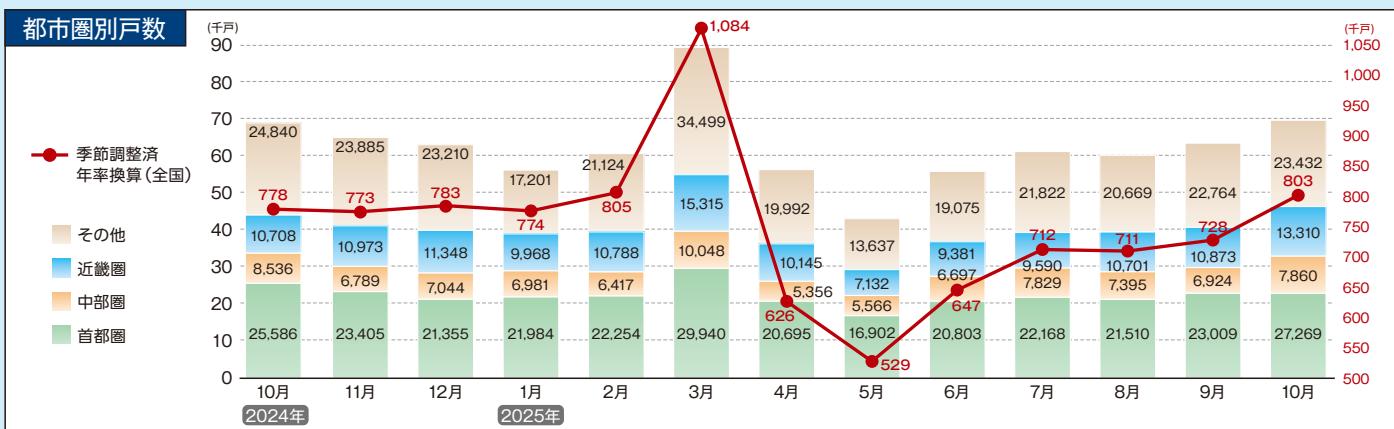
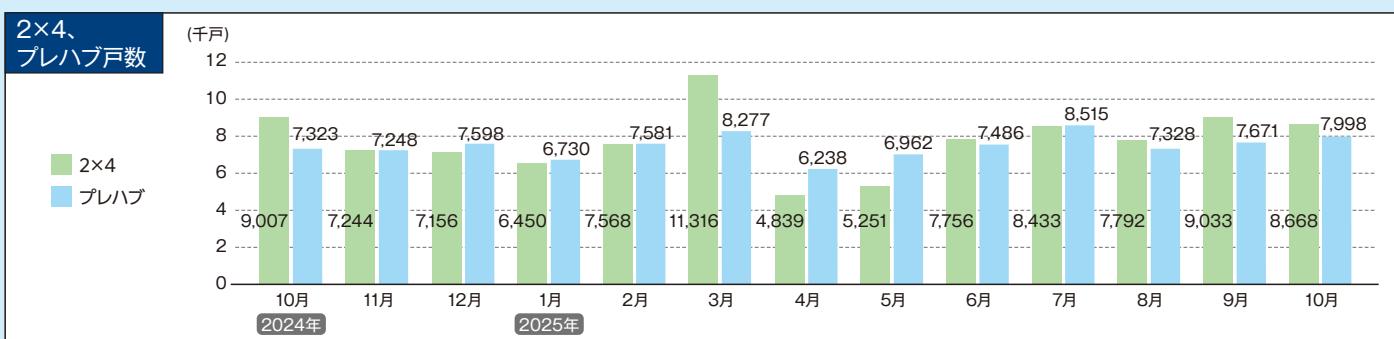
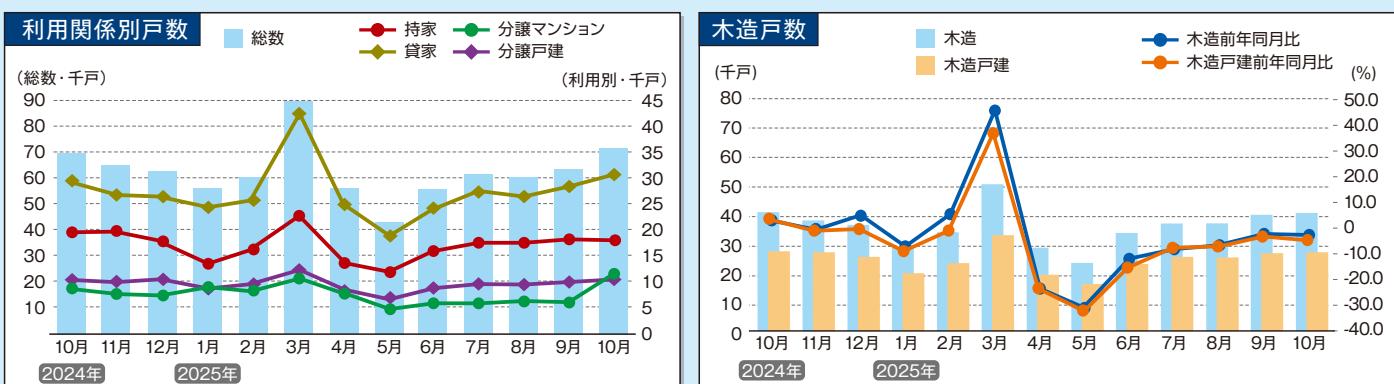
表紙：住友林業（株）住宅事業本部 仙台支店 などりりんくう展示場

* 家具などのインテリア品は実際の展示と異なる場合があります

資料室

2025年10月の新設住宅着工戸数 単位：戸 ▲は減

		10月					9月	8月	7月
		対前年同月比		対前々年同月比					
新設住宅計		71,871	2,201	3.2%	102	0.1%	63,570	60,275	61,409
建築主別	公共 民間	786 71,085	▲ 285 2,486	▲ 26.6% 3.6%	148	23.2%	785	132	662
利用 関係別	持家	18,081	▲ 1,625	▲ 8.2%	3	0.0%	18,273	17,532	17,665
	貸家	30,771	1,230	4.2%	▲ 900	▲ 2.8%	28,494	26,585	27,412
	給与住宅	539	▲ 307	▲ 36.3%	101	23.1%	375	339	446
	分譲住宅	22,480	2,903	14.8%	898	4.2%	16,428	15,819	15,886
	うちマンション うち戸建	11,650 10,564	2,813 53	31.8% 0.5%	1,476 ▲ 804	14.5% ▲ 7.1%	6,121 10,070	6,148 9,476	5,971 9,709
資金別	民間資金	65,256	1,339	2.1%	▲ 741	▲ 1.1%	57,865	55,545	55,883
	公的資金	6,615	862	15.0%	843	14.6%	5,705	4,730	5,526
	公営住宅	742	78	11.7%	417	128.3%	741	108	627
	住宅金融機関融資住宅	1,445	▲ 163	▲ 10.1%	▲ 786	▲ 35.2%	1,490	1,372	1,482
	都市再生機構建設住宅	0	▲ 341	▲ 100.0%	0	—	0	0	0
構造別	その他住宅	4,428	1,288	41.0%	1,212	37.7%	3,474	3,250	3,417
	木造	40,597	▲ 1,154	▲ 2.8%	47	0.1%	40,060	37,046	37,024
	非木造	31,274	3,355	12.0%	55	0.2%	23,510	23,229	24,385
	鉄骨鉄筋コンクリート造	586	189	47.6%	214	57.5%	117	443	166
	鉄筋コンクリート造	21,881	2,804	14.7%	971	4.6%	15,275	14,878	15,625
	鉄骨造	8,781	398	4.7%	▲ 1,101	▲ 11.1%	8,100	7,868	8,544
	コンクリートブロック造	18	▲ 18	▲ 50.0%	▲ 14	▲ 43.8%	12	33	42
	その他	8	▲ 18	▲ 69.2%	▲ 15	▲ 65.2%	6	7	8



(出典：国土交通省ホームページ http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html)

